

平成 21 年度 の 実 績

ベルマーク教育助成財団の平成 21 年度（第 16 期第 3 年度）の実績は、次の通りです。

（1）参加団体の集票点数

平成 21 年度の 1 年間の集票点数は 4 億 8 0 4 5 万 1 5 3 6 点で計画点数を約 4 0 0 0 万点上回りました。平成 20 年度の実績と比べると、約 3 0 0 0 万点の増加で、伸び率は約 6.9% になりました。前年度実績を上回ったのは、一昨年度、昨年度に引き続き 3 年連続です。運動開始以来の累計は 2 3 8 億 6 3 6 3 万 6 6 0 2 点になります。

（2）設備購入金額

ベルマーク資金で学校が、この 1 年間に設備品を購入した金額は 5 億 2 6 0 8 万 1 7 1 0 円で、前年度に比べ、約 2 0 0 0 万円の増加で、伸び率は 3.9% になりました。購入金額も 3 年連続で前年度を上回りました。累計は 2 2 5 億 1 2 6 9 万 7 4 9 2 円になります。

（3）参加団体数の変動

学校の統廃合などの影響で、この 1 年間に参加団体は 30 減って、平成 22 年 3 月末現在、28,420 となっています。世帯数では、約 918 万世帯になります。参加児童・生徒数は約 1,042 万人です。

年度末の学校種別の参加数、参加率と増加数は次の通りです。

	(参加数)	(全国総数)	(参加率)	(増減数)
小学校	15,066	22,258	67.7%	24減
中学校	6,737	10,864	62.0%	34減
高校	1,190	5,183	23.0%	2減

なお、幼稚園・保育園、大学等の参加数は次の通りです。

	(参加数)	(増減数)
幼稚園・保育園	5,315	1減
大学	52	16増
公民館	60	15増

(4) 教育援助事業

平成21年度は、次のような設備品などを、国内と海外の援助対象に贈りました。

(援助金額の1万円未満は四捨五入)

【国内援助】

<へき地学校>

100校に視聴覚備品や理科機器、楽器、スポーツ用具、朝日ジュニア学習年鑑を贈りました。都道府県教育委員会に援助対象校の選定を依頼し、財団から対象校に贈呈品リストを示して、希望の教材備品を選んでもらいました。

このほか、教育援助(ソフト援助)として12校を対象に一流選手による一輪車講習会を実施しました。また、5校を対象に理科の実験教室を開催しました。このほか「走り方教室」を4校で、イラストレーターによる絵画教室(お絵かき体験塾)を3校で、それぞれ実施しました。また、劇団「東少」による児童向け演劇公演「ベルマーク劇場」も全国3カ所で開催しました。

<養護学校>

20校に対し希望する視聴覚機材などの教材備品類(約397万円)を贈りました。

<盲学校>

35校に録音機能付きのデジタル録音図書読書機(約250万円)を贈りました。

<ろう学校>

15校に教材提示装置・IT収納映写ワゴン(約289万円)を贈りました。

<病院内学級>

4つの病院内学級に対してパソコンと自学・自習システム(約90万円)を贈りました。

【海外援助】

<日本人学校>

日本人学校・補習授業校13校(9カ国)に希望の教材備品(約158万円)を贈りました。

<開発途上国援助事業>

以下の2事業に計350万円の援助を実施しました。

(括弧内は実施団体)

☆ラオス・カンボジアに絵本を届ける事業 (シャンティ国際ボランティア会)	150万円
☆東ティモール保健教育支援 (シェア=国際保健協力市民の会)	200万円

【友愛援助】

平成20年度に呼びかけた第11回友愛援助に対して138校・園から411万円の拠出の申し出がありました。これに財団の資金668万円を加え総額1079万円の事業費で、以下の7事業を平成21年度の「友愛援助」として実施しました。

<北海道夕張市の子どもたちへの激励援助>

合計 79万円 (学校拠出 52万円、財団拠出 27万円)

平成21年9月、統廃合で平成23年に1校となる夕張市の小学校に、市教委を通じて、40型液晶テレビ6台(約79万円)を贈呈しました。全国81のPTAからの拠出申出金に財団の資金を加えて実施しました。

<開発途上国への援助>

合計900万円 (学校拠出303万円、財団拠出597万円)

5事業の内訳は以下の通り。

(括弧内は実施団体)

★インドの寺子屋を中心とした識字教育支援事業 (日本ユネスコ協会連盟)	300万円
★スマトラ沖大地震・大津波で被災した子どもたちへの 救援事業(ジョイセフ)	200万円
★カンボジアの子どもたちに対する教育支援事業 (日本ユニセフ協会)	100万円
★ラオスの学校図書室整備事業(ラオスのこども)	100万円
★子供の森計画支援事業(オイスカ)	200万円

<中国・四川大地震とミャンマーサイクロン災害への緊急援助>

合計100万円 (学校拠出 56万円、財団拠出 44万円)

平成20年5月12日に発生した四川大地震で被災した児童、同じく5月に発生したミャンマーサイクロンで被災を受けた児童たちに対し、現地で救援活動をしているNGO団体ジョイセフを通じて、合計100万円を緊急災害援助として贈りました。

【表彰事業】

朝日新聞社の「朝日のびのび教育賞」の副賞として5学校・団体に各20万円を贈呈しました。

(5) 協賛・協力会社

住友スリーエム株式会社が平成21年4月に台所スポンジで、22年1月には粘着フック・接着剤で、協賛会社として参加しました。

日活株式会社と株式会社山田養蜂場は、22年3月で協賛会社を脱退しました。

協力会社の旭硝子株式会社、株式会社学研教育みらい、株式会社中村製作所は22年3月で、脱退しました。

この結果、平成22年3月末現在での協賛会社は62社、協力会社は16社となっております。

以上